

和歌山大学
経済学部同窓会

柑芦わかやま

南出陽一(高商7回・故人)筆

柑芦会和歌山支部

編集発行人 坂本 漸
〒640-8567 和歌山市西汀丁36
和歌山商工会議所2階
山中盛義事務所内
TEL 073-423-1231
FAX 073-433-4066

柑芦会和歌山支部 支部長就任ご挨拶

支部長 坂本 漸 (すすむ) 大学8期

皆さん、はじめまして、世界を揺るがしている新型コロナウイルス騒ぎにもめげず、お元気で過ごしのことと、お慶び申し上げます。この度、柑芦会和歌山支部長に推選いただきました経済学部8期卒業の坂本漸でございます。昭和35年3月卒業ですから、それ以降にお生まれの会員が活躍されるべき場にこの爺です。浦島太郎の心境です。歴代の支部長さまには到底およびませんが、その実績を汚せぬよう、2年間老体に鞭打って参りたいと存じますので、どうかよろしくご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

さて、卒業以来60年の間に和歌山大学は大変な変わりようです。経済学部(短大含む)、教育(当時は学芸)学部の2学部からシステム工学部、観光学部が加わり総合大学化して参りました。そういった中で柑芦会の立ち位置はどうあるべきか。その立つ位置をどう梶取りをしていけばよいのか。

国立大学とはいえ、法人化され、国からの予算も厳しい状況だと伺っています。東京大学が加太地区に分室を構え、過疎地への取り組みを始めている昨今、和歌山大学は南紀熊野サテライト、岸和田サテライト等地方へと学びの場を提供しています。また留学生との関わり、大学院等社会人としての学びの場等々、私たちはそういったこととどう関わっていけるのか考えて行きたく思っています。この変化の激しい時代に対応していくには、私たちもただ卒業という肩書だけでなく、社会人として、つねに学び直す機関として母校ともっと関わって行きたいものです。

この地元の和歌山支部としてはまだまだ活動を活発にしてゆくべく、この地元和歌山との関わりを重視したいものです。大学の先生方も地域に出向き、その地域の歴史を繙(ひもと)き経済生活等を再検討することにより、将来への再生、活性化への支援に頑張っておられます。そんな中で私たちはどう参加し、どう関わられるのか、和歌山地方再生のために地元企業に少しでも寄与出来る方法はどうあるべきか。問題は山積しています。その活動を活発にするには、その根っこにはやっぱり「同窓」という心の拠り所、心の絆をしっかりと結び、ともに学び合う柑芦会でありたいものと思っています。何ごとも事を始めるには伝統ある「柑芦会」という心の絆を頼りに、和気あいあいとした会運営をしていきたいと、多数の会員の皆さまのご参加を、支部長就任にあたりお願い申し上げます、ご挨拶といたします。



10月に予定されていた「第10回ホームカミングデー」は中止になりました。

(大学のコメント)

大学の「今」をお伝えできるよう準備をしています。準備ができ次第ホームページでお知らせいたします。ホームカミングデーの代わりとはなりません。栄谷キャンパスや教育・研究について少しでも感じていただけるようにしたいと考えています。

コロナが収束し、また来年、元気に皆が一堂に会えますことを祈念致します。



支部総会報告

コロナ禍のなか、和歌山支部総会を開催し、新支部長に坂本 漸が選出されました。

新型コロナ禍の影響で、各支部の総会の開催が危ぶまれる中、今年は計画より規模を縮小し、恒例の講演会・懇親会等は中止し、総会のみ令和 2 年 5 月 23 日「ルミエール華月殿」にてウイルス対策を講じ、来賓に大学基金室の西本正人氏（大 23）をお迎えし、15 名の支部会員で開催いたしました。



～坂本 漸 新支部長就任～

前期中に久山支部長が退任されたため、支部長代行の坂本漸氏より開会のあいさつの後、各議案の審議を行い、全案異議なく承認されました。



新支部長には坂本漸氏が選出され、今後の支部運営をお願いすることとなりました。また、特別会計からは、大学開学 70 周年記念として大学基金に 50 万円の寄付をすることとなりました。

今回は、講演会・懇親会が無く、現役学生の招待もできず寂しい総会となりましたが、来年は多くの方々に来ていただき、ぜひ楽しい支部総会を開催できるよう祈るところです。

令和元年度 和歌山県内就職状況（経済学部）

令和 2 年 3 月 31 日現在

| 勤務先名 | 男 | 女 | 計 | 勤務先名 | 男 | 女 | 計 |
|-------------------|---|---|---|------------------|---|---|----|
| MES-KHI 由良ドッグ株式会社 | 1 | | 1 | 株式会社マルコーホーム | | 1 | 1 |
| アイエスプリンクラー株式会社 | 1 | | 1 | 株式会社伊藤農園 | | 1 | 1 |
| エバグリーン廣基株式会社 | 1 | | 1 | 株式会社紀陽銀行 | 3 | 7 | 10 |
| キクロン株式会社 | | 1 | 1 | 株式会社農業総合研究所 | | 1 | 1 |
| きのくに信用金庫 | | 3 | 3 | 株式会社和歌山県農協電算センター | | 1 | 1 |
| スガイ化学工業株式会社 | | 1 | 1 | 紀陽情報システム株式会社 | 1 | | 1 |
| 医療法人裕紫会 中谷病院 | | 1 | 1 | 公立大学法人 和歌山県立医科大学 | | 1 | 1 |
| 一般社団法人 和歌山県医師会 | 1 | 1 | 2 | 三谷組 | | 1 | 1 |
| 株式会社オーエ | | 3 | 3 | 内藤会計事務所 | 1 | | 1 |
| 株式会社スズキ自販和歌山 | 1 | | 1 | 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 | 1 | | 1 |
| 株式会社ダイキョウ | 1 | | 1 | 北畑会計事務所 | | 1 | 1 |
| 株式会社タカショー | | 1 | 1 | 和歌山ヤクルト販売株式会社 | | 1 | 1 |

| 勤務先名 | 男 | 女 | 計 |
|-----------------|----|----|----|
| 和歌山県信用農業協同組合連合会 | | 1 | 1 |
| 和歌山県農業協同組合連合会 | | 1 | 1 |
| 和歌山日産自動車株式会社 | 1 | | 1 |
| 高木彫刻株式会社 | 1 | | 1 |
| 岩出市役所 | | 1 | 1 |
| 厚生労働省 和歌山労働局 | 1 | | 1 |
| 広川町役場 | | 1 | 1 |
| 田辺市役所 | 1 | | 1 |
| 有田市役所 | 1 | 1 | 2 |
| 和歌山県警察本部 | 1 | 1 | 2 |
| 和歌山県庁 | 4 | 3 | 7 |
| 和歌山市消防局 | 2 | | 2 |
| 総計 | 24 | 35 | 59 |

和歌山支部年会費のお願い

和歌山支部は支部会員の年会費で運営されています。

年会費は 3,000 円で、主に支部事務局の運営、柑芦わかやまの発刊に使われます。

今期の会費を未納の方は、恐れ入りますが、下記銀行口座に振込お願いいたします。

なお、振込の際にはお名前の前に卒業期等を入れてください。(例：ケイ 42 コウロタロウ)

紀陽銀行 本店営業部 普通預金 789216

和歌山大学柑芦会和歌山支部

令和元年度会計報告

柑芦会和歌山支部

1. 一般会計の部

【収支計算書】 自平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | |
|----------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------------|
| 科目 | 予算額 | 実行額 | 摘要 | 科目 | 予算額 | 実行額 | 摘要 |
| 前年度繰越額 | 1,633,109 | 1,633,109 | | 総会費 | 350,000 | 317,080 | 於：アバローム紀の国 |
| 会員年会費 | 600,000 | 405,000 | 3000円×135名 | 支部ニュース発行費 | 250,000 | 114,518 | 「柑芦わかやま」40号ほか |
| 総会会費 | 120,000 | 87,000 | 3000円×29名 | 通信費 | 350,000 | 191,758 | 会員宛文書・柑芦わかやま送料等 |
| 柑芦会運営補助金 | 350,000 | 437,000 | 通信費助成金等 | 印刷費 | 100,000 | 87,303 | 案内状・封筒等印刷 |
| 預金利息 | 100 | 2 | 紀陽銀行普通 | 事務所費 | 120,000 | 120,000 | 支部事務所借室 |
| 雑収入 | 50,000 | 77,000 | 総会祝金 | 会議費 | 50,000 | 17,710 | 幹部役員会2回 |
| | | | | 慶弔費 | 80,000 | 30,000 | 他支部祝金、会員慶弔等 |
| | | | | 雑費 | 80,000 | 31,843 | 振込手数料、出張旅費等 |
| | | | | 支出合計 | 1,380,000 | 910,212 | |
| | | | | 次年度繰越金 | 1,373,209 | 1,728,899 | |
| 合計 | 2,753,209 | 2,639,111 | | 合計 | 2,753,209 | 2,639,111 | |

【貸借対照表】

| 科目 | 平成31年4月1日 | 令和2年3月31日 | 摘要 | 科目 | 平成31年4月1日 | 令和2年3月31日 | 摘要 |
|------|-----------|-----------|--------|------|-----------|-----------|----|
| 普通預金 | 298,807 | 156,471 | 紀陽銀行本店 | 正味財産 | 1,633,109 | 1,728,899 | |
| 当座預金 | 1,334,302 | 1,572,428 | ゆうちょ銀行 | | | | |
| 合計 | 1,633,109 | 1,728,899 | | 合計 | 1,633,109 | 1,728,899 | |

2. 基金の部

【収支計算書】 自平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | |
|--------|-----------|-----------|--------|----------|-----------|-----------|----------------|
| 科目 | 予算額 | 実行額 | 摘要 | 科目 | 予算額 | 実行額 | 摘要 |
| 前年度繰越額 | 1,549,502 | 1,549,502 | | 就活・交流支援金 | 100,000 | 50,000 | 留学生支援(リソ・コンコト) |
| 雑収入 | 100 | 12 | 普通預金利息 | 次年度繰越金 | 1,449,602 | 1,499,514 | |
| 合計 | 1,549,602 | 1,549,514 | | 合計 | 1,549,602 | 1,549,514 | |

【貸借対照表】

| 科目 | 平成31年4月1日 | 令和2年3月31日 | 摘要 | 科目 | 平成31年4月1日 | 令和2年3月31日 | 摘要 |
|------|-----------|-----------|--------|------|-----------|-----------|----|
| 普通預金 | 1,549,502 | 1,499,514 | 紀陽銀行本店 | 正味財産 | 1,549,502 | 1,499,514 | |
| 合計 | 1,549,502 | 1,499,514 | | 合計 | 1,549,502 | 1,499,514 | |

令和2年度収支予算書

柑芦会和歌山支部

1. 一般会計の部

【収支計算書】 自令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | |
|----------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|----------------|
| 科目 | 予算額 | 昨年実行額 | 摘要 | 科目 | 予算額 | 昨年実行額 | 摘要 |
| 前年度繰越額 | 1,728,899 | 1,633,109 | | 総会費 | 350,000 | 317,080 | ルミエール華月殿 |
| 会員年会費 | 600,000 | 405,000 | 3000円×200名 | 支部ニュース発行費 | 250,000 | 114,518 | 「柑芦わかやま」41,42号 |
| 総会会費 | 120,000 | 87,000 | 3000円×40名 | 通信費 | 350,000 | 191,758 | 文書送付料外 |
| 柑芦会運営補助金 | 350,000 | 437,000 | 通信費助成金等 | 印刷費 | 100,000 | 87,303 | 文書外印刷費 |
| 預金利息 | 100 | 2 | 紀陽銀行普通 | 事務所費 | 120,000 | 120,000 | 支部事務所借室 |
| 雑収入 | 50,000 | 77,000 | 総会祝金等 | 会議費 | 50,000 | 17,710 | 幹部役員会等 |
| | | | | 慶弔費 | 80,000 | 30,000 | 会員・大学慶弔支部祝金等 |
| | | | | 雑費 | 80,000 | 31,843 | 振込手数料、出張旅費等 |
| | | | | 支出合計 | 1,380,000 | 910,212 | |
| | | | | 次年度繰越金 | 1,468,999 | 1,728,899 | |
| 合計 | 2,848,999 | 2,639,111 | | 合計 | 2,848,999 | 2,639,111 | |

2. 基金の部

【収支計算書】 自令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | |
|--------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 科目 | 予算額 | 昨年実行額 | 摘要 | 科目 | 予算額 | 昨年実行額 | 摘要 |
| 前年度繰越額 | 1,499,514 | 1,549,502 | 紀陽銀行・普通 | 就活・交流支援金 | 100,000 | 50,000 | 留学生生活動交流等支援 |
| 雑収入 | 100 | 12 | 普通預金利息 | 大学70周年支援金 | 500,000 | 0 | |
| 合計 | 1,499,614 | 1,549,514 | | 次年度繰越金 | 899,614 | 1,499,514 | |
| | | | | 合計 | 1,499,614 | 1,549,514 | |

大学の叡智を地域に活かす

独創的で売り手優位な”モノ・コトづくり”を支援

和歌山大学 産学連携イノベーションセンター

<http://www.wakayama-u.ac.jp/cijr/contact/58/>

恵下 隆 センター長 / 工学博士



コロナ禍がなかなか終息の兆しを見せない中、7月には大雨が降りつづき、九州始め各地の豪雨災害が起きました。8月は連日の猛暑日でした。

これからどんな時代になってゆくのか、その一つの解が、これまでなかなか進まなかった地方の復権を実現することです。

和歌山大学への期待も益々高まることでしょう。

本欄では、大学キャンパス内にある産学連携イノベーションセンターの産学連携の取り組みを紹介させていただきます。

当日は恵下センター長ほか3名のスタッフの先生からお話を伺うことができました。



和歌山大学 産学連携イノベーションセンター

同センターが行う産学連携事業の主なものは次の通りです。

1. 地域企業・公共団体との連携事業(いずれも有料)

(1) 学術指導

本学研究者が専門的知識に基づき助言・講習、簡便な調査等を行うことで、企業等の業務や活動を支援する制度。<共同研究>や<受託研究>に向けて、大学との連携の最初の一步に相当。

(2) 共同研究

企業等から研究経費を受け入れて、本学研究者と企業等の研究者が対等の立場で共通の課題(個別開発)について研究を行う制度。企業等の研究者が本学の施設で研究を行う「派遣型」と、それぞれの施設で研究を行う「分担型」の2つのタイプがある。

(3) 受託研究

企業等の側に研究者がいない場合に、企業等からの課題とともに受託研究経費を受けて、本学研究者が研究を行う制度。

これらの制度を利用したい時は、まず大学の研究情

報をウェブや刊行物、産学交流行事などで収集してから、同センターのコーディネーターの先生と連携の進め方を相談するというように、決められた手順に則って進める必要があります。



右上は、恵下 産学連携イノベーションセンター長
左下は、左から坂本和歌山支部長、塩路副支部長

2. 共同研究講座(新しい制度・有料)

個別の研究開発にあたる従来の共同研究を一步進めて、企業の研究者を特任教員として大学に受入れ、学内組織として研究グループ<講座>を設置します。企業には次のようなメリットがあります。

- ①受け入れた研究者(特任教員)は大学の資源をフルに活用できる。
- ②学生への企業PR効果も期待できる。
- ③さらに、本講座に企業が出費した費用は試験研究費として税制上の優遇措置が受けられる。



左から前田産学連携コーディネーター/特任教授/工学博士
似内副センター長/専任准教授/工学博士
米田産学連携コーディネーター/特任助教 の各先生

本センターのスタッフの方には弁理士資格を持った方が1名有り、大学の先生の特許取得や、特許に関する相談に応じておられます。

和歌山大学の研究者一人当たりの特許収入は全国大学ランクで7位(H28)と活躍されておられます。

3. アントレプレナー（起業）支援制度

学内の先生や学生の起業を支援しています。

既存の企業と連携するだけでなく、新しく起業することもまた、産学連携のあり方だと思います。

地元企業として既に立ち上がった会社もあります。また社会人教育にも取り組んでいます。

(1) 起業家精神を持った学生を育てる

起業を志す学生を支援するため、これまで宿泊施設として使用されていた栄谷会館を2018年から開放しています。ここでの活動は、大学の先生のサポートや様々な支援を受けることができます。

活動を通して学生は様々な賞を受賞しています。

(学生への起業支援のサイトから)

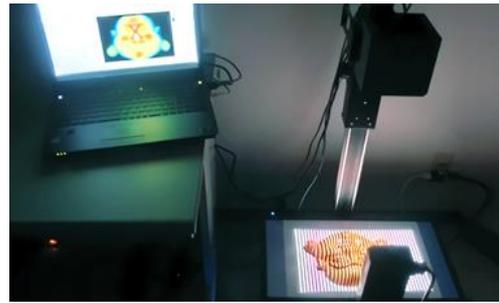
| |
|--|
| 第一回和歌山地域クラウド交流会 優勝 2018年10月 経済学部 一回生 |
| Red Bull Basement University 優勝 2018年10月 経済学部 三回生 |
| アグリカルチャーコンペティション審査員特別賞 2018年11月 観光学部 三回生チーム |
| 第四回ビジネスプランコンテスト 奨励賞 2019年2月 経済学部 一回生 |
| 第二回 Start up Weekend 白浜 2019年4月 観光学部 四回生チーム 観光学部 二回生チーム |
| 第二回和歌山地域クラウド交流会 優勝 2019年5月 経済学部 四回生 |
| 第三回和歌山地域クラウド交流会 優勝 2019年6月 システム工学部 二回生 |
| 第三回 Start up Weekend 白浜 優勝 2019年11月 社会人&経済学部 二回生チーム |
| アイデアピッチコンテスト サポーター賞名古屋市信用保証協会賞 2019年11月 観光学部 一回生 |
| 令和元年度開放特許等を活用したビジネスアイデア学生コンテスト 近畿経済産業局長賞(同時受賞 関西みらい銀行賞) 2020年1月 システム工学部 二回生 |

(2) 起業支援

和歌山大学発ベンチャー企業が生まれています。

① 4D センサー株式会社

4D センサーは和歌山大学で研究されたモアレ計測の技術を事業化した企業です。モアレによる物体の形状計測やひずみの計測技術は、橋梁等の大型インフラから電子部品等の微小な物体まで様々な物を対象として検査する事が可能です。また、車やエンジン等の表面の歪を正確に測定する事も可能で、ものづくりに欠かせない技術として世界への展開が期待されます。



② パワーアシストインターナショナル株式会社



農業・物流・建設・工場内作業・介護・日常生活において広く活用できます。

- 1) 素早い持ち上げ・持ち下げ作業での腰アシスト
- 2) 深くしゃがみこむ中腰作業での姿勢保持アシスト
- 3) 傾斜地や階段での歩行アシスト

軽量コンパクトで、動きに遅れずにアシストできます。

③ 株式会社 QIS (Quic Innovation Solutions)

2019年12月に設立、直近に和歌山大学発ベンチャーの称号を得た企業です。(詳細QIS訪問記)

④ たくさんの、次の出番を待つ研究



段差や傾斜部なども移動できるパーソナルモビリティビークル(電動車いす)

(3) 柑芦会(和歌山大学経済学部同窓会)の「香村賞ビジネスプラン」コンテストの開催

学生の勉学意識と社会的貢献意識の向上、及び、就職支援・創業支援を目的に全学生(院生を含む)を対象として、柑芦会(和歌山大学経済学部同窓会)の「香村常雄基金」の果実を利用した「香村賞ビジネスプラン」コンテストを毎年開催しています。

(センターは文理融合で、文理学部の先生がたも産官学連携の研究と実践に取り組まれています。)

今回は「モノづくり」を中心に紹介させて頂きました。「コトづくり」については改めて「柑芦わかやま」紙上で紹介させて頂く予定です。)

産業イノベーションと地方国立大学

—文理共同で産官学金連携活動を展開—

オンライン対談

和歌山大学経済学部 藤田和史 准教授
(COC+推進室長、岸和田サテライト代表)
柑芦会和歌山支部 坂本 漸 支部長
塩路 茂一 副支部長

9月4日、市内の会場と、大学をオンラインで繋げてオンライン対談を実施しました。



新型コロナウイルスによる感染症の拡大が及ぼす、社会や産業への影響は、おそらく、今生きている私達には経験したことがない事態でしょう。

イノベーションを興して克服すると言っても、容易でないことは想像が付きまます。今回、難しいテーマをご無理お願いして藤田先生のお話を伺いました。

産学連携イノベーションセンターの設立目的に「産官学金連携活動を通じて、その成果を広く社会に還元する」と有りますが、産官学はよく聞く言葉ですが、金も加えての連携活動とはどういうことでしょうか。

企業などでは経営資源としてヒト・モノ・カネ・情

報があげられますが、イノベーションをおこすのも知力資源だけでは不十分でお金の役割が重要です。さらに現今の地方創生の文脈では、労働団体やメディアの方々との連携も大切だと考えています。

本学でも地元の地銀さん、各種の団体・メディアなどと共同して地域課題に取り組んでいます。

文部科学省はこれからの社会で求められるのは「STEAM人材」だと言っていますが、和歌山大学での取り組みをお話下さい。

従来、日本では文系・理系とは、明確に分けられる概念だと考えられてきました。しかし、AIやビッグデータは、文・理共通の基盤として求められているものです。いわば、ツールとして考えられ、文系学生であっても基礎知識が必要となっています。

和歌山大学では今年度からデータサイエンスに関する基礎知識を1年次で履修することになりました。統計やデータの基本的な見方や知識を身に付けてもらいます。

一方で、理工系の学生であってもアート（倫理や哲学など）、人文・社会科学系の発想力が求められています。創造性には文・理の垣根はなく、多様な知性が求められているといえるでしょう。



STEAMとは、科学 (Science) 技術 (Technology) 工学 (Engineering) アート (Arts) 数学 (Mathematics) の5つの頭文字を取った造語です。

地域産業にイノベーションを起こすため、大学が創出した技術を地域企業に連鎖する意外にも、例えば、地域資源を活かし大学と企業で地元で新産業創出するなどが考えられます。

和歌山大学での取り組みをご紹介します。

イノベーションというと、「技術革新」と訳されている関係か、技術面での革新のみと受け取られがちですが、社会・制度・文化・価値などが変革することも本来のイノベーションに相当します。

今年度、和歌山大学では「紀伊半島価値共創基幹Kii-Plus」を設置し地域とタッグを組み、地域の価値を共に作り上げてゆく活動に取り組んでいます。

その内の「食農総合研究所研」は、まさに農や食の分野で地域の資源を活かし、地域を活性化することに取り組んでいます。

新型コロナで世界中の経済活動が低下しました。感染症自体はいずれ収束に向かうでしょうが、企業人は今どんな心構えで望むべきか先生のお考えをお聞かせ下さい。

個人的には新型コロナの影響は長期化すると考えています。

世界で見ると比較的被害が少なく早く立ち直る地域と、なかなか立ち直れない地域が生じて、経済の地殻変動が起きると予想されます。

国内では外需に依存してきた部分、特にインバウンド観光で潤ってきた産業のダメージは大きく、簡単には回復は見込めないでしょう。

当面は国内で必要とされるものは何か、需要をどう掘り起こし、取り込んでゆくかを考える必要があります。同時に、コロナ収束後の変化した世界への対応が求められる。二つの視点で取り組みを進めるべきと考えます。

例えば、先のインバウンド観光も、安近短を求めて中国から大勢の観光客がやって来ましたが、かつての日本人がそうであったように、将来的には旅行目的は多様化し、団体は個人

や小グループに変化してゆきます。

日本観光はワン・オブゼムとして海外旅客からは選択肢の一つと考えられるようになってゆくでしょう。

これまでに蓄積したデータから、変化を読み取りニーズの掘り起こしなど対応方法を立案しておくことも、コロナを乗り越えた後への準備として大切です。

その文脈でいえば、これから求められるのは、その土地に根ざしたローカルイノベーションです。地域の価値を認め、新たなものを付加して、違う価値を創造する。そして、グローバルな市場に訴えていくことが重要となります。

大学OBは多くが第一線から退いていますが、まだ元気な人も多くあります、何かの形で地域の産業イノベーションに参画できるでしょうか

得てきた知見をアウトプットして頂くことは、社会にとって非常に有益なことだと考えます。

ただ、「俺の時はこうだったんだ」では、今の若い人の心に響かないので、常に学び続け、知見をアップデート（最新の状態に更新）して頂ければ、周辺にイノベーションを巻き起こして頂くことも大いに期待されます。是非、学びに戻って来て下さい。

<最後に、坂本支部長と塩路副支部長から、地方国立大学としてこれからも地域社会・地域産業と密接に連携を保って頂きたいこと、また、お忙しい中、貴重なお話をお伺いできたことにお礼を申し上げて、今回のオンライン対談を終了しました。>



人が育つ地域と地域を創る学びを推進する
生涯学習・リカレント教育推進室



地域とのコミュニケーション・ステーション
サテライト

<紀伊半島価値共創 5つの基幹>



和歌山が誇る食と農林水産業の研究拠点
食農総合研究教育センター



災害科学と地域振興を結ぶ観光地防災の拠点
災害科学・レジリエンス共創センター



紀州の歴史や文化の地域学を構築する
紀州経済史文化史研究所

株式会社 QIS 訪問記



(左) 戚 (セキ) 社長 (右) 坂本柑芦会和歌山支部長
場所: 和歌山大学 産学連携イノベーションセンター

戚 意強 社長 略歴

2006 年 和歌山大学システム工学部 入学
2012 年 同 研究科卒業 (株)日立ソリューションズ 入社
2014 年～2020 年
社会人博士として大学に復帰
2019 年 12 月 株式会社 QIS 設立 代表取締役

現在、日本人 2 名、中国人 2 名、スペイン人 1 名の、5 名のチームで遠隔地をネットで繋げて、主に次の 4 つのプロジェクトに取り組んでいる。

1. 医療画像自動認識

乳がん診断に使われる DBT (X 線管球を移動させながら連続的に低線量で撮影を行い、複数の角度から撮影した画像を再構成して断層像を作成する技術) から、自動的に乳がんおよび初期症状の自動検出を目指し、複数の医療機関と提携して進めている。

2. PC ログ分析

パソコンを使った作業記録を分析し、業務効率化などに役立てる。現在のオフィスワークは殆どがパソコンを使って行われており、パソコンの使用履歴

は、業務の開始から終了まで時系列的に記録することが可能である。数値化された記録を分析しその結果を言語化して示すことで業務の重複などの無駄の排除や、自動化などに役立てることができる。テレワークが広がるなかで引き合いがある。

3. VR リアルタイム配信システム

観光地など遠隔地の人の動きを 360 度で画像に録り、圧縮・復元の技術で膨大な情報量処理の問題を解決し、観光振興や新しいサービス業の創出に役立てる。

4. Deep learning Tracker

物体の見た目を深層学習で追跡することで、自動倉庫などの高効率化に貢献できる。

<以下は、戚社長のお話です>

チームメンバーのマネジメントもやりながら大変ですね、と言うと、「メンバーがドンドン走っていて、自分は御輿に乗っているだけです。」との返事。

「時代の変化に合わせて、社会に新しい価値を提供して行くのはエキサイティングで楽しく、いちいち指示しなくても自律的に目標実現に向かって動いている。」とのこと。

「10 年前、自分では分かっていなかったが、今振り返ってみると、これまで取り組んで来たことが、スキルや人脈となって活かされながら、ここまで来たことが分かった。これからもスキルや人脈は、時から時へ、と、人から人へと繋がっていくでしょう。」

「和歌山は自然環境に恵まれている、変化する技術や市場環境の速いスピードと、和歌山のユッタリした時間の組み合わせが自分には適している。」

「インターネット環境が整備され、仕事する上で物理的な距離から解放されている。世界のどこでもメンバーが繋がって仕事をすることが出来る。和歌山でも世界に伍して行ける仕事ができる。」

新型コロナウイルスによる感染症の影響が、社会・経済に暗い影を落とす中、新しい社会の構築を目指す動きもあります。その一つが、狭い空間に集積することが効率的であるとしてきたことへの疑問です。密にならなくてもやれる、それなら地方でも良いじゃないか、地方にもっと任せてはどうか。

社会変革のエンジンとしてイノベーションを先導し、地方の知識集約型社会をリードする核として地方国立大学が果たす役割への期待が高まっています。今号では和歌山大学の産学連携活動の取り組みの一端を紹介させていただきます。
「柑芦わかやま」編集部

削減や縮小の対象になりがちな地方の旧来の国公立大学 (主として国立大学) は、各地方での R&D そのものを支える大切な拠点であり知的集積地だ。貧困層が広がり、地元以外に進学させる余力がない家庭が急増する中、地方における才能の大切な受け皿 (人材育成の場) でもある。
安宅和人「シン・ニホン」p268 より

留学生寄稿

2020 和歌山大学 留学生による
第12回作文コンクール
優秀作文の内から、

経済学研究科 経済学専攻1年
ベトナム ルハヤンさん

「幸せご飯」



ある時、私は日本人の先生に「なぜ日本にはそんなマナーがあるのですか。」と尋ねたところ、先生は「それは食べ物を与えてくださった人々に対する感謝の気持ちを表す言葉なのですよ。」と教えてくれました。

そして、「日本人は相手の気持ちを大切に

私はベトナム人留学生です。ベトナムにいた頃、毎日のご飯は母が作ってくれました。しかし、そのご飯は、毎日同じようなものばかりで、時にはしょっぱすぎることもあり、辛すぎることもあり。私が嫌な顔をして食べたくなさそうにしていると、母は「昔は白米さえあれば、美味しいご飯だったのよ。今のあなたは贅沢な暮らしをしてるから、ご飯の大切さが分からないのよ。」と叱りました。

4年前、私は日本に来て一人暮らしを始めました。食事を作るのが苦手でした。家族と離れて寂しいだけでなく、慣れない食べ物が喉を通らないこともあり。そんな経験をした今、母の料理に対して文句を言っていた自分を後悔し、故郷でのご飯が懐かしく感じるようになりました。



日本では、食事の前に、いつも「いただきます」、そして終わったら「ごちそうさま」という習慣があることを日本に来て初めて知りました。

ベトナムでは、食べる前も食べた後も何も言いません。ですから、このような習慣は私には全然理解できませんでした。

にする文化があります。だから、食べる人が作ってくれた人に感謝するのはもちろんですが、それよりも、作った人がそれを聞くと幸せになるでしょう。」と言いました。

18年間にわたって母がご飯を作ってくれたのに、母に「ありがとう」どころか、時に不平さえ言っていた私は、先生の話聞いて恥ずかしくて声も出ませんでした。そして、心から反省しました。



去年の夏休みに帰国して、母のご飯をまた食べた時、嬉しく思うと同時になぜか涙が出てきました。その日のご飯は、昔たくさん文

句を言ったはずの料理なのに、今までで一番美味しいご飯だと感じました。

一度家族と離れ、初めて食べた母のご飯、ありがたさが身に染みしました。そして、母に「お母さん、いつもご飯を作ってくれて、ありがとう。」と言いました。すると、母は何も言わず、ただ笑っていました。その笑顔を見て、母が私の感謝の言葉を喜んでくれていると分かりました。私にとって、それは本当に幸せなご飯でした。

いただきます ごちそうさまでした 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より抜粋

「いただきます」という言葉が謙譲語であるため、この挨拶の背景にはしばしば感謝の心があると指摘される。

直接的な感謝としては、食事の提供者や農業・労働・調理にかかわった人への感謝があげられる。現在も、調理や労働に携わった者、家族に向けて行われることが少なくない。

また、宗教的には神人共食の考え方が根底にあり、「いただきます」は神への感謝とする説が、民俗学等で唱えられている。ただし、この宗教的な考え方は現在では薄まり、現在は食事の作法として「いただきます」の挨拶が残っているとされる。これらの人や神への感謝に加えて、命を支える食物や、その食べ物を生み出す天地の恵み、それらを含めた関わったもの一切によって、我々が生かされていることへの感謝もまた、しばしば取り上げられる。

「ごちそうさまでした」「馳走(ちそう)」とは、元来、「走りまわる」「馬を駆って走らせる」「奔走(ほんそう)する」ことを意味する。中国から日本にはいったのち、(世話をするためにかけまわるので)世話をすること、面倒をみることといった意味が生まれた。さらに、用意するためにかけまわることから、心をこめた(食事の)もてなしや、そのためのおいしい食物といった意味が、中世末から近世始めにかけて生まれた。

南紀熊野サテライト通信

和歌山大学南紀熊野サテライト
地域連携コーディネーター 古久保綾子



紀南地域の現状や、地域で実施している本学の教育研究活動、社会人学生の様子をレポートさせていただきます。

木を見て森を見ず、目先の業務に追われ日々過ごしがちなのですが通勤中や会議に出かけて、ふと目にする紀南の青い海や山々に見惚れることが度々です。当地には特有の資源が豊富で、世界遺産の熊野古道、ラムサール条約登録湿地に認定された世界最北のサンゴの海。ダイナミックな大地の活動を体感できる南紀熊野ジオパーク。捕鯨文化は「鯨とともに生きる」日本遺産に認定されており、養分に乏しい崩れやすい斜面で高品質な梅を 400 年以上持続的に生産してきた農業システム「みなべ・田辺の梅システム」はユネスコ世界農業遺産に認定されています。この和歌山県熊野は、100 万人以上読者を持つ外国人向け情報サイトでも 2020 年外国人が訪れるべき日本観光地ランキングで 1 位を獲得するなど、神仏習合や自然崇拜の聖地と称され神秘的な神々が棲まう場所として、悠久の歴史文化や自然資源とともに住民や巡礼者から大切にされて現代に継承されています。この豊かなフィールドを持つ紀南地域では、様々な分野で本学の学生や教員が日々教育や研究活動を実施しています。

今回は、豊かな資源の源である紀南地域の森林の活用、林業分野の新たな取り組みを紹介します。和歌山県は、県土の 4 分の 3 (76%) が森林で、蓄積量は全国 9 位、森林の国有林は 4.9%、大部分の 95.1% は民有林で公有林も含まれるものの大半は私有林で木材生産を目的に植えられた人工林は、森林の約 60% です。ヒノキなどの建築に適した針葉樹が多く全国屈指の森林資源量を保有しています。しかし住宅需要の変化で下落する立木価格や人件費の上昇から較差は拡大し、林業経営は収益性が悪化しています。H27 国勢調査では、本県の林業労働者は S35 に対し 90% 減。60 歳以上が占める割合も S35 の 11% に対して H27 は 31.9% と高く林業は重要な産業ながらも維持管理が厳しい局面です。環境面でも木材生産以外の公益的機能（水源かん養、土砂流出防止）は重要で、経済と環境を守るために森林の荒廃への対策は急務です。近年まで次世代が森林に関心を寄せる機会は少ない傾向でしたが、この数年で変化の兆しがあります。新たな税制度の施行や、今年 6 月には上富田町に未利用材の木質資源の新たな需要先として熱（サーマル）利用に着目した県内初の木質バイオマス発電所が商業運転を開始しています。地元採用を含む十数名が従事されており、県内の山林未利用材や一般材をチップにして 900 度で燃焼。蒸気を作り、蒸気エネルギーでタービンを回して電気を造っています。電気は電力会社の送電線に送っているとのこと。今後は、災害時に携帯の充電ステー



右：世界農業遺産寄付講義の様子、左：木育の県内調査の様子

右：世界農業遺産寄付講義の様子、左：木育の県内調査の様子



ションや避難所などへの協力も検討をしていきたいとのことで取り組みも楽しみです。

また、昨年度に報告された和歌山大学と県内大学との共同研究報告書「木の国わかやま」における木育活動の効果的な普及と紀州材活用促進」でも新たな事例で「育林」と「木育」が紹介されています。

木を伐らない林業の会社として注目を集める(株)中川の事例では、「育林」業は既存林業と比べて必要な資格が少なく参入しやすい点や、経験が必要な急峻な斜面での作業に貨物用ドローンを活用して資材や植林苗の運搬をするICT技術を活用した効率化。未利用材の虫食い材の活用や県外苗木を県内産に替えて地域内経済循環を高める取り組み。林業の過酷なイメージを払拭する柔軟な雇用契約での働き方の提案。居酒屋と連携した弁当手配など時代に合わせた対応で若い移住者の定住を促進している例を紹介。虫食い材の活用では、サテライトで学んだ社会人学生も共に活動しています。

「木育」では、田辺市所在の製材業(株)山長商店で活躍されている和歌山大学経済学部OBの迫平氏が2017年頃から県内で牽引している活動の聞き取り調査から、将来顧客への紀州材の啓発を目的に事業に参入した



経緯や高校の出張授業に登壇して地場産業の関心を高め、地元回帰の動機付に貢献している例など次世代が連携して活路を開拓している事例を紹介。他にも廃材を燃料で燃やさず、端材を玩具として活用する「木活」での老年世代の生き甲斐創出の事例や、地元材に適した玩具開発や教育分野での可能性を検証しています。報告書の纏めには長期的な森林づくり構想への位置付けや関係者のネットワーク化、指導者育成などを課題に挙げています。

サテライトも共同研究に参加し、林業と教育分野を結ぶ木育事業に委員として参画して各業を繋いでいます。コロナ禍で県内での集会在自粛された際は、紀南の高校生と和生大が連携して紀州材を使った教材や動画を用意して紀南の小学生が自宅で体験できる夏休み木工体験の事業を実施するなど幅広い世代を巻き込んだ木育活動が産学官民にて推進されており、今後への機運の高まりを感じます。

南紀熊野サテライトも15周年になり同窓生の活動も豊かになりました。10年前に修士論文を書かれた社会人学生は国際協力隊シニアの部で発展途上国にバイオマス発電を指導しに渡航されたり、自治体の副町長や観光協会長になられる方も居られて地域の中核で現代の課題を克服する活動や学生の教育にも尽力されています。この社会人教育もコロナ禍で新たな対応や量から質の価値観の転化で地域社会での貢献がより求められています。

日々刻々と変わる現状を地域で見ながら、次代に果たすべき役割は何なのか。地に足がついた調査研究の成果を地域に還元するために新しい技術との融合の提案や、暮らしと資源を保全活用する視点での持続可能な地域振興を学ぶ地元学の教育機会の設置など、木と森を同時に見る視点で、課題に即した学びの機会を設けながら紀南地域の「知」の拠り所として同窓の皆様と共に活動を進めていきます。



クラブ紹介 和歌山大学交響楽団

和歌山大学交響楽団は、1949年に設立され今年で72年目を迎える、和歌山大学の部活動団体の中でも比較的長期の歴史を持つ団体です。団員は現在50名程度で、大学に入学してから楽器を新しく始めたという団員も多く在籍しています。

学外での演奏会は、5月に大阪府阪南市のサラダホールで開催されるプロムナードコンサート、12月に和歌山市民会館で開催される定期演奏会の2回を毎年開催しており、団員はこれらの演奏会に向けて日々練習を重ねています。2018年12月の定期演奏会では、定期演奏会50回目の節目として、大曲であるベルリオーズ作曲「幻想交響曲」を演奏しました。通常の練習は週3回行っていますが、夏季休業のような長期休業中は週4回練習を行います。また長期休業中は、毎年春と夏に1回ずつ合宿を行っています。

学外の施設に宿泊し、外部の音楽トレーナーの先生方に指導していただくことで、より本格的な演奏を行うための集中的な練習を行うことが目的です。また練習以外にも団内の行事として、団員の有志が集まり曲を完成させ、他の団員に発表する団内発表会や、団内での親睦を深めるボウリングや野球などのスポーツ大会も企画されます。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、今年5月に予定していました第45回プロムナードコンサートの中止、長期にわたる通常練習の休止といった不測の事態が数多く起こりました。しかし現在は感染防止対策を実施しながら練習を再開しています。人の密集を避けなければならない、管楽器奏者は演奏中マスクが着用できないなどの様々な課題があり、以前と全く同じ練習は行えていませんが、団内で独自の感染防止対策を考案し、より安全な活動が行えるよう取り組みを続けています。

(文章作成：和歌山大学交響楽団 山本むつみ)



ちょっと覗いてみませんか・・・「紀雲書評同好会」

毎月、第4火曜日の午後2時から

和歌山市駅前会場でおしゃべりをしています

会費不要・欠席自由・退会自由

ジャンルを問いません

読んだ本を紹介しあうだけ



編集後記

今号も多くの方々にご協力を頂き、完成・発行の運びとなりましたことを、心からお礼申し上げます。

「柑芦わかやま」編集委員
松野浩行、山中盛義、西川一弘

(事務局) 渥美正道、渥美盛也
atsumi@beach.ocn.ne.jp